

くとうばや ひとうとともにあて いぬちむぬがたいや  
ちゅらさるむんに なゆん

松田共司

昨年二月に開催されたこの座談会は、なんとコロナ禍になり延期に延期を重ね、三年後に行われました。明治学院大学言語文化研究所の皆さんの粘り強さはビックリですし、頭が下がります。言語学者の忍耐強さと言うかすごいと思いました。平岩先生は、「受け継ぐ」というテーマに目を向け、しまくとうばの未来とやちむんの未来を思い、皆さんと話し合いを持ちたいと思ったんですね。重要なテーマだと思いました。今回何か書いてお願いされましたので書くのは苦手ですが、書いてみました。題名はうちなぐちで「くとうばや ひとうとともにあて いぬちむぬがたいや ちゅらさるむんに なゆん」とつけました。「言語は人と共にあり命物語は美しい形となる」という意味です。

#### ヤチムンサー(陶工)

私はヤチムンサーになって五十年目を迎えています。十九才からこの世界に入り、修行十四年ののち、読谷村に企画書を出し、土地を借りて、三十八才で北窯を四人で築窯しました。私は一代目なので親からの血筋は無く、私を育てた大嶺實清先生には大きな恩義があります。見て覚えろの世界ではありましたが、厳しさの中にも信頼と愛を注がれたと思います。沖繩というテーマをいつも自分の中で模索していた時代、沖繩が日本に復帰していた頃です。今考えたら、自分というモノがわからず、自分の生きる意義というか、自己発見にあえていた時だったと思います。やちむんの歴史を学んだり、琉球古陶を見たり先輩たちの技術にあこがれ、当時こわれた沖繩文化の復

興が自分と重なったかなと思います。五十年前の話ですが、頑張れば報われる時代でした。

陶器は世界中に色々ありますが、やちむんと呼ばれる琉球陶器はとてもユニークで日本本土のものとは違い、また中国や東南アジア、大きく朝鮮の影響も受けましたが、やちむんの独特の美しさがあります。私は長年ヤチムンサーですけど、まだ飽き足りずやちむん作りに興味があります。特に古陶器の美しさは心惹かれますね。沖縄の土を使い、色も形も歴史が育んだもの。時代に流されず、今なお残っている技法や焼成の仕方など、それがやちむんを生み出す重要なものかなと思います。

しかし現在、今、どうでしょうか。従来通りのやり方は、とても難しい時代を迎えています。沖縄県の開発が進み、リゾート、ゴルフ場、道路。取れたはずの土がなかなか手に入らなくなりました。資源が枯渇し環境も悪化して、今までのやちむんが生み出しにくい。さらに困難な時代になるかも思っています。現在、沖縄では多くの陶器を多くの場所で生み出していますが、本来のやちむんと呼ばれる陶器は少ない。美しいやちむんを絶やしてはいけないと思います。

### 受け継ぐもの

北窯には四人の親方がいて、それぞれに弟子が四〜六人ぐらゐります。親方たちは彼らにやちむん作りを教え、共に働いて

います。私の工房では弟子を十年訓練して独立させています。十年は、長いようで、あつという間に過ぎる。無論色々な理由でリタイヤする子もいるし、立派に成し遂げる子もいます。私の所からこの三十年の間に十名ほどの弟子が独立しました。彼らが独立した後、確かに、やちむんを教えました。どの様な陶器を生み出すかは、本人次第であります。先ず、陶器を生み出し生きること。美しい陶器、やちむんとは何かと求め続けること。大雑把に「継ぐこと」は陶器（やちむん）を生み出すことだと考えています。

さて、陶器を生み出す目的は何か。換金だけではないし、自己実現でもない。そもそも一人の力でなにかを生み出せるものではない。多くの人間関係を持ちながら、貸し借りしながら、自然の恵みも受け、何とか生み出せる、「受け継ぐもの」の原理はそこら辺にあるのではないかと思います。技術指導も感覚伝授もお互いの信頼関係にあるような気がします。信頼する先輩に指導されればその人の中に届く。信頼と尊敬が無ければいくら言っても理解はしないし、受肉はしない。当然のことだと思います。

### 美しいやちむん

山の土を掘り起こし、水で洗って沈澱させ、練って形を作り、乾かして、柄をつけ、あるいは細工して登り窯で焼いて生まれ

たやちむんは日常品など様々なものが出て来ます。おびたしい数です。中には色々出て来ますが、立派で美しいものがあります……さて、何をもって美しいと言えるか、美しいと言ったことばの意味は何なのか。よく言われるのは、海のようなとか、花のようなとか、力があるとか、癒されるとか、かわい、好きだとか……形容詞を並べるのが手っ取り早いそうなのです。五十年もやちむんを作り続けていると、美しいものが生まれてくるときは大体、感(プロセス)で分かります。しっかりとした工程と身の回りの状況など、作る際に「土」との対話が十分になされる時、その物語が美しい形となるのです。多くの人が美しいと思う時、何かしら命を感じていると思います。

民間からウチナーグチ(しまくとぅば)が聞こえなくなつた時、一つの言語が終わり、やちむんも本来の作る工程が無くなれば美しいやちむんも終わりを告げる。受け継ぐものは技法や財産だけではなく、もの作りとしての生き方そのものです。後輩に安心して継げる様に、整備したり、改革することも怠つてはならないと思いますね。

### 3Dプリンターの陶器

最後にこの話は余談ですが、ある公募展の審査に参加しました。3Dプリンターで作った陶器が出品されていました。色々

と審議され、結果、票を得て入選しましたが、私は面白いと思いましたが、無機質で命があまり感ぜずに居ました。これからの時代は益々その様な作品が多くなる事でしょう。本物の美しさを選び取る時代に来ていると思います。